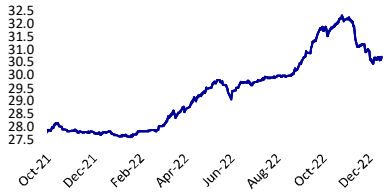
Mizuho Weekly Market Report

12/19/2022
みずほ銀行東アジア資金部台北室

市場動向

■USD/TWD



■USD/JPY

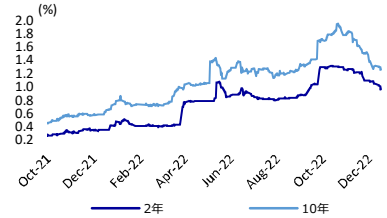
■JPY/TWD

■EUR/USD

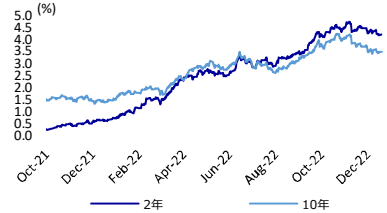
■USD/CNH

■台湾加権指数

■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初12/12は30.690でオープン後、台湾株が下落すると台湾ドルは売られ、30.7台前半まで上昇。しかし、週内に米国のCPI、FOMCの発表を控え、その後は狭いレンジで推移。12/13は外銀勢の売り買いで取引量は拡大したものの、狭いレンジでの推移は続いた。12/14は前日の米CPIが予想より下回ったことから利上げ減速への期待が高まり米株が上昇をしたことを受けて、台湾株が急反発。台湾ドル買いが優勢となり、30.5台半ばまで下落した。12/15は一時30.540まで下落したものの、前日のFOMCを受けて景気後退への懸念が高まり、リスク回避の動きからドルが買い戻された。また、中国の経済指標も悪化したことから30.6台前半まで戻した。12/16は米11月小売売上高が予想を下回ったことから米株が急落したことを受けて台湾株も急落すると、台湾ドルも売られ、一時30.765まで上昇。その後も高値圏で推移したが、輸出企業のドル売りもあり、最終的に先週比0.3%ドル高台湾ドル安の30.710で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は184.6億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初12/12は136.62でオープン後、週内に米CPIやFOMCの発表を控える中、レンジでの推移が続いたが、米10年債の入札が不調で米長期金利が上昇すると、137円台後半まで上昇。12/13は、注目の米11月CPIが予想以上に伸びが鈍化したことから米金利は低下し、ドル円も134円台後半まで下落。しかし、翌日にFOMCを控え、ドルを買い戻す動きも見られ、135円台半ばまで戻した。12/14は日銀が新体制で来年中にも金融政策の点検・検証を行う可能性があるとの報道を受けて、一時134.53まで急落するもすぐに135円台付近に戻した。FOMCでは予想通り0.5%の利上げとなったが、ドットチャートがタカ派と解釈され、米金利上昇に追従し136円を目指す展開となったものの、戻り売りもあり、135円台半ばで推移。12/15はFOMC後の動きが一旦落ち着いたものの、再びFOMCを受けてドル高の流れが再開し、じりじりと上昇。またECB理事会を受けてユーロが買われる展開から日銀の金融政策との差が改めて意識されると円が売られ、11月米小売売上高が予想を下回ったことからリスク回避のドル買いもあり、一時138.18まで上昇した。12/16はドル買いが一服すると137円前半で推移したが、米12月製造業PMI、サービス業PMIがともに予想を下回り、米金利が低下するとドル円も売られ、最終的に先週比0.1%ドル高円安の136.73で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD　予想レンジ：30.550-30.800

先週は注目された米CPIとFOMCが発表され、クリスマス休暇前の大きなイベントが経過しており、今週はクリスマス休暇を前に徐々に取引が薄くなり、レンジでの推移となるであろう。

■USD/JPY　予想レンジ：132.00-139.00

今週は日銀の金融政策決定会合を控えている。引き続き、緩和政策を維持すると見られるが、一部では政策変更の思惑や報道がされており、内容次第ではクリスマス休暇で商いが少なくなる中、荒い値動きには警戒したい。

今週の予定

12/19 (MON)	
12/20 (TUE)	台湾11月輸出受注、日銀金融政策決定会合、PBOC、米11月住宅着工/許可件数
12/21 (WED)	米11月中古住宅販売件数、米12月消費者信頼感指数
12/22 (THU)	台湾11月失業率、米Q3GDP確報値
12/23 (FRI)	台湾11月鉱工業生産、米11月PCEデフレーター、米11月耐久財受注、米11月新築住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようにお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。